

**プロジェクト名：Training on Efficient Irrigation Techniques and Rainwater Harvesting**  
(実施期間：2019年10月～0.3ヵ月、担当業務：節水灌漑、農家調査法に関する研修)

**業務背景**

シリア国では2011年3月からの内戦によって、国内の経済・社会インフラが破壊され、数百万人規模の国内避難民及び国外へ脱出した難民が発生した。農業分野でも灌漑施設等のインフラ破壊や、灌漑資材・種子・肥料・農薬・ディーゼル等の不足が大きな問題となっていた。こうした事態に対処するために、FAO（国連食糧農業機関）/ICARDA（国際乾燥地農業研究センター）の支援のもと、隣国レバノンにおいてシリア人技術者を対象とした灌漑システムの復旧や応急補修に係る標題の研修が実施された。この研修には国際耕種とICARDAの専門家に加えて、過去にJICAが実施した技プロに参加して節水灌漑の普及に豊富な経験を持つカウンターパート達も講師として参加した。

**業務概要**

研修はレバノンにあるICARDAの施設で実施された。研修前半は主にICARDA研究者による効率的水利用やwater harvest等に関する講義が中心で、後半は日本人専門家及びシリア人C/Pによる灌漑システムの設計、応急診断、農家調査法等の講義であった。研修内容は、シリア国の現状や復興支援の要素が求められることも考慮に入れて、緊急時に対応できるようにより実践的な知識や技術の提供に努めた。また最終日には、本研修で学んだことを今後の業務に活用していくための計画（Action Plan）作成とその指導を行った。さらに、レバノンにおける研修の終了後、シリア国内における参加者に対する補完研修活動として、water harvestサイトの見学や水資源管理に関する説明、灌漑資材の工場見学に加えて、灌漑圃場に準備した現場での配管実習もシリア人C/Pの指導のもとで行った。

**担当事項**

- 研修員のレベルや理解度を把握するために、“zero-final assessment”として、研修内容に関わる各質問から成るテストを事前、事後に実施
- シリア節水灌漑DEITEXプロジェクトの紹介
- 灌漑システムの応急措置的解決法（First aid solution）に関する講義
- 農家調査法に関する講義
- 研修後の活動に関するアクションプラン作成の指導（Useful Learning：研修で学んだ有用技術・知識の抽出、それを活用するための活動と実施スケジュールの作成、活動報告書のフォーマットの説明等）



First aid solutionの講義



Action Plan作成の指導



農業試験場の見学



zero-final assessmentの様子



研修員の集合写真



灌漑実習用のツール類